

Q (基本的) 2人で一組になり、たすみや腕章をつけて地域を歩いています。でも警察や町会を必ずしも連携しているわけではありません。

A いろいろな活動をされているんですね。そうしたパトロールの一番の意義は、保護者が「地域のなかで、目に見える活動」をしていることだと思っています。パトロールはお母さん方がすることが多いのが現状でしようから、犯罪防止という観点からは、警察(行政)や地域(消防団など)に任せる方が有効かもしれないですね。でも、母親であればこそ、子どもたち「お帰りのなごい」「気を付けて帰るなごい」などで声をかけることもできるのでは

Q 例えは、給田小では、子どもの安全を守るために全校生徒の保護者が下校時を中心に日替わりでパトロールを行っているのですが、こうした活動はCSと関連して行っているのでしょうか？

A 街で自転車のかたに「〇〇小学校〇〇」とついているのを見かけますが、そのパトロールをするときも何か目印をつけているのですか？ 警察や町会などと連携しているのですか？

Q 尊の「教えて！井上先生」で、「ミニチュア・スクールは「保護者がボランティアをする学校」と必ずしもイコールではないというお話をしていたと思います。ボランティアをしたくてもできない保護者もいるはずなので、ホッとしました。

他方で、井上先生は「ボランティアやPTAの活動が活発な給田小」を評価する一方、すべてが今更に通好ではない「お母さん」もあっています。その場合、CSとPTA活動との関連について、もう少し具体的にお話を聞きたいと思っています。

教えて！井上先生



しように、保護者の視点から地域の環境や状況を見直すことも重要です。「PTAの係だから、しかたなくする」「笑」ということではなにして、しているとの意味を「ミニチュアのなかで大きくとらえ直していただきたい」と願っています。まっとう「いろいろなことが見えてくるはず」。

Q なるほど、それがいつも言われている「CSの視点で価値づけ」のことなのですか？

A そうです。PTAのパトロールは、犯罪や事故がない地域となることを願って行われているわけですが、「お母さん・お父さんの姿が見える活動」であれば、子どもたち「おとなに見守られている」という安心感を与えるに違いありません。また、パトロールをきっかけに、保護者同士が知り合ったり、地域の方との交流が生まれたらすれば、それこそ「ミニチュア」と言えます。

Q CSになったから、PTAのパトロール活動を変えなくてはならないということではなく、パトロールの意味を「ミニチュアの視点で考える」ということですね。確かに、パトロールをしているお母さんから声をかけられたら子どももうれいでしょうし、私たちもパトロールをしている人を見かけたら「こんにちは」「こんばんは」と声をかけると人間関係が広がりますね。

A その通りです。自分自身が「ミニチュアの一角であることを意識すれば、これまでと同じ活動であっても、目に映る風景が変わってくることをぜひ実感してください。また、地域の方もパトロールしている保護者を見かけたり声をかけていただければ幸いです。

地域環境連絡協議会

11月14日、烏山区民センター集会所にて地域環境連絡協議会が行われました。

地域環境連絡協議会とは、世田谷区内にある警察4署の管轄(こと)開催される会議で、警察・学校・PTA・教育委員会・青少年委員会・世小P役員等が集まり、防犯・交通安全・地域の教育環境の整備・少年犯罪の防止などについて意見交換する会です。

今年度の成城警察管内の地域環境連絡協議会は、給田小学校が当番校となり、3年生の「地域安全マップ作り」の授業について報告しました。集会室の壁は、3年生が作ったカラフルな安全マップと、担任教員が作った授業資料が隙間のないほど掲示され、授業にボランティアとしてずっと参加してきた実行委員が、どのように取り組んできたのか、どんな成果があったのかをスライドなどを使って報告しました。



また、同日、小出治先生(東京大学工学部都市工学科教授)の講演がありました。その中で「給田小が取り組まされた安全マップ作りは、子どもたちが協力しあって作成し、また何を考え何を得たのかを発表することで情報を共有することがねらいの活動です。子どもたちは、自分の通学路だけでなく、友だちの通学路はどつなっているのか

なごを知ることもできます。危険な場所など悪いところだけをなく、積極的に行きたいところを目を向けることで、防犯のためというだけでなく、自分たちの町を知ったり、地域の人と会話をすることで町の歴史についても理解が広がったと思います」とお話されています。また、「地域に関心や愛着を持ち、犯罪の少ない地域を作ることの第一歩は、『おはよう』『こんにちは』などのあいさつをかわすことではないでしょうか」ともおっしゃっていました。

地域運営学校としての3つのビジョンに「子どもたちが、住んでいる地域や通っている学校について、自分の言葉で表現できるよみになる」とあります。ここには、保護者や地域の方とたくさんふれ合いながら、自分のまわりのことを知り、好きになって欲しい、そして心の中に温かい人たちが楽しい学校の記憶が残る、大人になった時に「私たちの子どもを私たちが育てる」を受け継いでくれるような人になって欲しい、そんな願いが込められています。



あひさつやちよつとした会話が地域のひとと人を繋ぎ、犯罪を防ぐ力になるのであれば、まず、私たちから行動し、安全なまちを子どもたちに誇れるようにしたいものです。

日本女子体育大学で 野球の交流試合をしました!



仕撮人・安部先生

11月5日(土) 給田小の校庭で、給田小に關わっている大人と日本女子体育大学の学生のみならず、による野球の交流試合が開催されました。北鳥山にある日本女子体育大学のみならず、体育の授業の補助ボランティアや、わくわくフェスティバルなどさまざまな形で給田小を支援してくださっています。

日本女子体育大学チームは、健康スポーツ学科の講師で給田小・学校関係者評価委員でもある須甲理生先生のゼミ生や軟式野球部の学生さん18名、対する給田小チームは、スポーツ大好きな安部先生が率いる先生がたとお父さんたち18名。

初回、緊張ぎみの学生さんたちを相手に、張り切る給田小チームは一気に7点を先取しました。ところが、油断したのが、日頃の運動不足がたたってか、シフトを追いつけられ、終わってみれば、12対13の惜敗。昨年に続いて2敗目です。

試合後、攻守にわたり大活躍だった野球部の学生さんは「楽しかったです。皆さんなかなかやりますね」とキラキラハキハキ話してくれました。給田小に「かけっこ」を教えに来てくれているゼミの学生さんは「子どもたちが本当に可愛く、机の上での勉強や実習とはまた違う発見や喜びがあります。先生の立場も知ることが出来ます」と話していました。

試合以外の場面でも、学生さんたちは、応援にきていた子どもに声をかけたり、遊んでくれたりしたので、大人だけでなく、子どもにとっても楽しい交流となりました。子どもたちを見守って下さる温かい目が確実に広がっているのを感じた一日でした。

もちつき会

千歳民俗資料保存会

12月3日(土)あいにくの雨の中、給田小で「もちつき会」が行われました。前日から降り続いた雨がひときわ激しくなった朝8時、保存会のメンバーを始め、PTAの皆さん、YAMA-Oの皆さんが準備のために集まってきました。



こんな雨の中、子どもたちが来てくれるのか……。と皆さん一様に心配顔でしたが、それでも各自持ち場につき、テキパキと準備が進められます。ホイラーから白く湯気が上がり始めるも、もちつきの高まり、作業も慌ただしくなります。準備の手を止めて皆さんが集合し、麻生則行会長の挨拶のあと、もちつきが事故無く無事に終わることを祈って「お清め」が行われました。

心配していた子どもたちの出足もよく、開始時間の10時には、ヒロティに行列ができるようになりました。もち米がふっくらと蒸じあがり、「かけつき」が始まるも、子どもたちから「わーっ」と歓声が上がります。今年は、大人だけではなく、子どもたちも、もちつきに挑戦しました。YAMA-Oのお父さんたちの「よしよし」のかけ声に合わせて真剣にもちをつく子どもたち。「もちつき会」に新たなワン・シーンが加わりました。

もちつきが終わると、ランチルームには、校長先生を中心に「つき手」の皆さんの大きな輪ができました。PTAの大先輩でもある保存会の女性陣が加わり、お手製のお漬物がふるまわれ、もちつき談話に花が咲きます。おいしいお漬物に感激したPTAの役員さんが、お母さんほど年の離れた先輩たちにレシピを聞きスマートフォンにメモをしている様子は、まさに世代を越えた交流でした。先生もおおせい参加され、「繋がる給田・強い給田」をさまざまな場面で感じた「もちつき会」でした。

今月のわんこ 清水フラウニーちゃん



犬種: トイ・プードル (ブラウン)
性別: オス
年齢: 6歳
性格: 人も動物も大好き!
声をかけられると嬉しくてピョンピョン飛びはねます。抱っこ大好きな甘えん坊です。

あてがき

皆さん「わんわんパトロール」(わんパト)という活動を知っていますか? 今や、全国に広がったこの活動は、実は私が始めたことなんです。犬を飼いだめたのはいいけれど、朝夕など一日に数回散歩をさせることは結構大変でした。そのうちにどう散歩をするなら何かの役に立てないか、楽しくできないかと考え、いつもの犬の散歩が立派なパトロールになるのではないかと思いつきました。そして平成15年3月に活動を開始しました。

いつもの犬の散歩がパトロールになる。給田小の「ミニティ・スクール(CS)」の考えも「わんパト」の発想と同じだと私は理解しています。CSだからと無理やり行動を起すのではなく、今まで行っていた行動の見方と意味を養える。これが給田小のCSです。今までの行動の考え方を養えるだけで、無理に新しいことをするわけではないので、誰にも負担がかからない。要するに気持ちの問題ですから誰でもCSに参加できるのです。

例えば、子どもの忘れ物を学校に届ける。この行動を私なりにCSの視点を念頭に考えようと「学校に行く機会ができた。沢山の子どもたちと挨拶を交わし、顔を覚えてもらおう」というふうになるわけです。私は仕事上いろいろの方々と接する機会があります。今までは自分のため、仕事のためと思い接していましたが、運営委員に任命されてからは、仕事に対してもCS的な視点から考えることができるようになり、私がパイプ役となりいろいろの方がたが給田小に繋がっていただけだと思いつながら仕事をしています。

誰もが経験したことがなかった3・11の大震災、当たり前のことが当たり前ではなかったことを考えさせられた2011年が、間もなく終わりを告げようとしています。いろいろな人が支えてくれていたから当たり前の生活ができていたこと、面倒だなと思うことも視点を変えようと豊かな人間関係を広げてくれること、この2つのことを肝に銘じ、2012年を迎えたいと思っています。

運営委員 程原剛

